

ブラ語動詞の特徴

塩田 勝彦

1998年2月14日

1 動詞の派生

1.1 派生のタイプ

ブラ語は、動詞語根と接尾辞の組み合わせで様々な語幹の派生をおこなう。接尾辞には生産的なものもあるが、特定の組み合わせが慣用的な意味を持つ語彙として定着している例も多い。

接尾辞はその機能により、主に動作の方向に関係するもの、動作の様式に関係するもの、アスペクトに関係するものに分類できるが、そのすべての機能を少しずつ含有するのが普通である。なお派生語幹には複数の接尾辞を含む例も珍しくない。

接尾辞には、身体名称と共通するもの (-mnyà, -ŋkór), 前置詞と共通するもの (-tà, -há), 接尾辞としてのみ用いられるものがある。

1.2 種類と機能

1.2.1 -mnyà 1

「完全に～する」「～し尽くす」という意味を持つ。変化動詞の語幹声調交代¹を伴う。

bdǎ-mnyà 「食い尽くす、平らげる」 < bdǎ 「食べる」

sá-mnyà 「飲み尽くす」 < sà 「飲む」

í ká sá-mnyà yímí. 「私は水を全部飲んでしまった」

í ká sà yímí. 「私は水を飲んだ」

1.2.2 -fiày

上方から下方への動作を表す。話者の視点は上方にある点に注意。

直前の音節を高声調に変える。

pú-fiày 「上からこぼす」 < pú 「(液体などを)あける」

vá-fiày 「上から放る」 < vù 「置く」

fál-fiày 「飛び降りる」 < fálá 「跳ぶ、飛ぶ」

¹ 2.2 節を参照。

1.2.3 -y

ある一定の場所へ向けた動作を表す。
直前の音節を低声調に変える。

pù-y 「注ぐ」
vè-y 「一定の場所に置く、据える」

1.2.4 -wá

内側への動作を表す。

pú-wá 「中に注ぐ」
vè-wá 「中に置く」
fál-wá 「～の中に飛び込む」

1.2.5 -dzâ

「周りに～する」を意味する。

pú-dzâ 「周りにこぼす」
dí-dzâ 「(煙が)立つ」 < dŵâ 「動く、引越す」

1.2.6 -ŋkér

「何かの上に～する」あるいは「加える」という意味を持つ。与格構文(前置詞 álá-)をとる場合が多い。

vè-ŋkér 「上に置く」
fál-ŋkér 「上に飛び乗る」
tíf-ŋkér 「上に(唾を)吐く」 < tífà 「(唾を)吐く」
tsá tíf-ŋkér-álí mtíli. 「彼は私に唾を吐きかけた」

1.2.7 -fálà

外部へ向かう動作を表す。

pú-fálà 「外へこぼす」
fál-fálà 「跳び出す」
sà-fálà 「(蛇の毒などを)吸い出す」
tíf-fálà 「(唾を)吐き出す」
yà-fálà 「産み落す」 < yà 「産む」
ndùr-fálà 「渡り過ぎる」 < ndùrà 「越える」

慣用的な用例も存在する。

ŋgà-fálà 「理解する」 < ŋgà 「聞く」
vè-fálà 「名付ける」

1.2.8 -há

対象へ接近する動作を表す。

wùl-há 「よく見る, 調べる」 < wùlà 「見る」
lá-há 「(ある土地, 町へ) 行く」 < lá 「向かう」

1.2.9 -mnyà 2

「口の中へ」の方向を表す。

mnyà 1 とは異なり, 語幹声調は影響を受けない。

pú-mnyà 「口に入れる (複数)」
nzèhè-mnyà 「(粒を) 口に入れる」 < nzèhà 「放る, 投げる」
vè-mnyà 「口に持っていく (単数)」

1.2.10 -mtà

対象から離れる動作を表す。

接尾辞の声調は低だが, 例外がある。

pù-mtà 「(液体などを) 投げ棄てる」
fál-mtâ 「飛んで逃げる, 飛び退く」
hwì-mtà 「逃亡する」 < hwì 「走る」

完了アスペクトで用いられ, 動作の完了を強調する。

jìkà-mtà 「数え終わる」 < jìkà 「数える」
í kó jìkà-mtà. 「全部数え終わった」

慣用的表現も多い。

tèrà-mtà 「超える」 < tèrà 「行く」
ŋèní tèrà-mtà ɲèndâ. 「これはあれよりいい」

(cf. yàà tèrà. 「僕は行く」)

1.2.11 -àrí, -àrì

対象に達した動作を表す。

接尾辞の声調には高低タイプと低低タイプが存在する。

shín-àrí 「回す, ひっくり返す, 裏返す」 < shíná 「変える, 変化する」
í kó shín-ár kàrkàdór nâ. 「私は自分の本を裏返した」
(cf. kílà kó shíná. 「犬が狂った」)
(cf. í kó shín-àntó kàrkàdór nâ. 「私は自分の本を裏返した」)

mw-àrì	「行く」	<	mwà	「歩く」
tsək-w-àrì	「触れる」			
fw-àrì	「忘れる」			
ngèl-àrì	「拒否する」			

1.2.12 -tsá

「部分的に～する」という意味を持つ。

ká-tsá	「一部を取る」	<	ká	「取る，汲む」
ntsár-tsá	「一部を搾る」	<	ntsàrà	「圧縮する，搾る」
dlèw-tsá	「取り上げる」	<	dlèwà	「受け取る」

1.2.13 -là

点的でない，やや時間の幅を持った動作を表す。継続相で用いられることが多いが，その限りではない。

接尾辞の声調は基本的に低だが，例外が存在する。変化動詞の場合，語幹声調とともに接尾辞の声調も変化する。

wù-là	「見る，眺める」	(cf. wù-tà	「見る」)
kè-là	「持つ，運ぶ」	(cf. kè-tà	「取る」)

1.2.14 -tà

動作と対象(目的語)の関連，或は動作の着点を強調する。

語源的には，空間の前置詞 átà 「上に」との関連が考えられる²。

接尾辞の声調およびその変化は -là と同じ。

vè-tà 「置く」

置く場所を指定する場合は前置詞 átà が必要。

yàkwá vè-tè kèl átà kwárá. 「ロバに荷物を積んでいる」

wù-là 「見る」 (cf. wù-tà 「見る」)

í wù-tè ní. 「私は彼を見た」

(cf. í wù-l ní. 「私は彼(の面倒)を見た」)

yàkwá wúté ní. 「私は彼が見える(遠くから近づいてきて，徐々に見えてきている)」

(cf. yàkwá wú-l ní. 「私は彼を眺めている」)

ngà-tà 「聞く」 < ngà 「聞く」

yàkwá ngà làbár. 「私はニュースを聞いている」

*yàkwá ngà-tè làbár.

² Hoffmann 1963 p144

yàkwá ngà-tè kùràká rédiò nì. 「私はラジオの音を聞いている」

*yàkwá ngà kùràká rédiò nì.

dzàm-tà 「思い出す」 < dzàmà 「思う」

tlyíp-tà 「習得する」 < tlyípà 「習う, 学ぶ」

ndlá-tá 「登る」 < ndlá 「登る」

yàà ndlò-té mfwà. 「私は木に登る (意思の表明)」

(cf. yàà ndlò mfwà. 「私は木に登る (すでに木に取り付いている)」)

ɲkà-tà 「妨げる」 < ɲkà 「捕まえる」

pónjéw ɲkà-tè rā tá hyání. 「蚊のせいで眠れなかった」

tlàŋ-tà 「起こす, (人を) 遣る」 < tlàŋà 「起こす, (人を) 遣る」

í tlàŋ-tè ní. 「私は彼を起こした」

(cf. yàkwá tlàŋè ní. 「私は彼を起こしている」)

tíf-tà 「(唾を) 吐く」

sà-tà 「飲む」

sólí ká sà-tè māmshì. 「足が痺れた (足が血を飲んだ)」

ɲkèr-tà 「テストする, 検査する」 < ɲkèrà 「語る, 測る」

1.2.15 -ántá

語幹声調交代を伴わない。

接尾辞の声調は例外的に低高型も存在する。

自動詞とともに用いられ, 使役の他動詞を派生する。

shúwr-ántá 「匂わせる, 匂いをさせる」 < shúwrì 「匂う」

tùlári nì àkwá shúwr-ánté mbwâ nì. 「この香水が部屋に香りを与えている」

(cf. léptérní àkwá shúwrì. 「彼のシャツは臭う」)

fièr-ántà 「疲れさす」 < fièrà 「疲れる」

kétlèr nì ká fièràntè rā. 「この仕事で私は疲れた」

(cf. gèré fièrì. 「君は疲れている」)

mw-ántá 「持っていく」 < mwà 「歩く」

mw-ánt-álá liyà nì! 「彼にこの金を持っていけ」

(cf. í mwà. 「私は歩いた」)

s-éntá 「持ってくる」 < sé 「(こちらへ) 向かう」

1.2.16 -y

動作の結果を強調する。

tsó-y 「殺す」 < tsá 「殴る，打つ」
só-y 「到着する，来る」

完了アスペクトマーカー kó とともに用いられ，完了性を強調する。

kílà ɲèní kó káló-y rà. 「この犬は私を咬んだ（傷痕が生々しく残っている）」

(cf. kílà ɲèní kó kállà(= kál rà). 「この犬は私を咬んだ」)

kó は疑問文，名詞強調文で用いることはできないが，-y は可能な場合もある。

kílà ɲèní káló-y mórí? 「この犬何か咬んだのか？（犬の口に何かを咬んだ痕跡が残っている）」

(cf. kílà ɲèní kál mórí? 「この犬は何を咬んだのだ？」)

*kílà ɲèní kó kál mórí?

*kílà ɲèní kó káló-y mórí?

命令文で用いる場合もある。

káló-y mángwàlà! 「マンゴーを咬み切れ，咬みとれ！」

(cf. kál mángwàlà! 「マンゴーを咬め！」)

1.2.17 重複による派生

nzènzí 「座る」 < nzi 「～の状態である，～となる」

í nzènzí. 「私は座った」

(cf. ìná nzi ká káɲéà. 「私はいつもお金を持っていた」)

pépáy 「横たわる」 < páy 「寝る，セックスする（主語は男）」

gè pépáy átà vèypáy. 「あなたはベッドに横になった」

(cf. tsá páy ka 'íyà. 「彼は私と寝た」)

mwààmwa 「徒歩で行く」 < mwà 「歩く」

hwìhwí 「走る，逃げる」 < hwì 「走る」

重複による複数語幹。

hèhèy 「(多くの物を) 掛ける」 < hày 「掛ける」

hèhèy dá! 「それらを掛ける」

(cf. hày ní! 「それを掛ける」)

*hèhèy ní! 「それらを掛ける」

1.2.18 擬似派生

他動詞が直接目的語 *dzî* を取り、再帰あるいは相互動詞として機能する場合がある。*dzî* は *dzá* 「体、身体」から派生したものと思われる。

<i>ndàtə dzî</i>	「驚く」	<	<i>ndàtə</i>	「驚かす」
<i>dəkəy dzî</i>	「怪我をする」	<	<i>dəkà</i>	「打つ」
<i>ŋgàβəlà dzî</i>	「話し合う、議論する」	<	<i>ŋgàβəlà</i>	「理解する」
<i>dəkà dzî</i>	「殴り合う」	<	<i>dəkà</i>	「殴る」

2 時制・相

2.1 主語代名詞

ブラ語はハウサ語とは異なり、主語代名詞と時制や相を表す形態素とが比較的容易に分離可能である。特殊な融合形を持つものについては、それぞれの動詞構造辞の項を参照。

	単数	複数
1	<i>í(excl.) / mwà(incl.)</i>	<i>yàr(excl.) / mbùr(incl.)</i>
2	<i>gə</i>	<i>gìr</i>
3	<i>tsá</i>	<i>dà</i>

1 人称単数に包括形と除外形の区別が存在するが、これはビュ・マンダラ諸語の特徴でもある。話者 1 人と聞き手 1 人をセットにして 1 人称単数と考え、いわゆる 1 人称「私」を除外形「私とあなた」を包括形としている。1 人称単数包括形を双数と記述する場合もあるが、「私と彼」の 2 人は *mwà* ではなく *yàr* になるため、適切ではないと考えられる³。

2.2 動詞語根の声調交代

ブラ語は高・低・降の 3 つの声調を持つ。動詞語根にはあらゆる声調の組み合わせが可能だが、降は最終音節にのみ観察される。

第 1 音節の声調が低の動詞に、特定の時制や相、および派生形で高声調に変化するものがあり、これを変化動詞と呼び、第 1 音節が低で無変化の動詞を低声調動詞、第 1 音節が高の動詞（すべて無変化）を高声調動詞と呼ぶことにする。

変化動詞の声調変化は、基本的に語根の声調にのみ起こるが、複音節語根の場合、第 2 音節以下が変化するものとしもないものがある。

<i>kwàsà</i>	「食べる」	→	<i>kwásá</i>
<i>hùvə</i>	「急ぐ」	→	<i>húvə</i>

また一部の派生接尾辞 (*-tà*, *-là* etc) は、語根と一緒に声調が変化する。

<i>wùtà</i>	「見る」	→	<i>wútá</i>
<i>kèlà</i>	「運ぶ」	→	<i>kólá</i>

³ Schuh 1983 p314

2.3 動詞構造と時制・相

動詞構造には動詞構造辞と動詞 1 つを含む 1 次的なもの、助動詞を用いる 2 次的なものがある。動詞構造辞は動詞に先行する。

肯定動詞構造の中には、対応する否定動詞構造を持たないものがある。また関係節の中で使用できないもの、フォーカス文で使用できないもの、疑問詞疑問文で使用できないものなど、いくつかの制限がある

2.3.1 過去

動詞構造辞は Ø (ゼロ) で、主語代名詞の後に動詞が直結する。単純に過去の出来事を語るときに用いられる。

変化動詞は低声調パターン。

í Ø bàdĩ ká tsâ. 「私は彼と口論した」

tsá Ø kógâ bzèŋkyàr ní. 「彼は倅を呼んだ」

tsá Ø pálá, "yí, mààmá." 「彼は言った『はい、御母さん』」

2.3.2 完了

動詞構造辞は ká。2 人称単数主語代名詞と融合し、gèr' という形をとる。「すでに終了した動作」を表すが、関係節、フォーカス文、疑問詞疑問文では用いられない。また否定構造を持たず、否定過去が対応する。

変化動詞は低声調パターン。

í ká titilèmtà mtlyî átà bàkâ. 「筵の上にギニアコーンをばらまいた」

gèr sòndì yà? 「おまえ知ってたか？」

má díká nè ká sóy ká pwà, ká gè kètè pyàlà. 「その鳥がやってきて降りたったら、石を拾うんじゃ」

2.3.3 否定過去

[主語代名詞 + ádĩ + 動詞構造辞 Ø + 動詞 (句) + wà]

という形で表現する。ádĩ は「存在する、ある」を表し、wà は否定辞である。

変化動詞は低声調パターン。主語代名詞と ádĩ の融合形は;

	単数	複数
1	yádĩ(excl.) / mwàdĩ(incl.)	yàrádĩ(excl.) / mbùrádĩ(incl.)
2	gàdĩ	gìrádĩ
3	tsádĩ	dàdĩ

dàdĩ wùtè ní wà. 「彼らは彼を見なかった」

yádĩ tètà wà. 「私は行かなかった」

2.3.4 未来1型

動詞構造辞は à。「これから起こる動作」,あるいは「可能な動作」を表す。
変化動詞は低声調パターン。

	単数	複数
1	yàà(excl.) / mwàà(incl.)	yàrà(excl.) / mbùrà(incl.)
2	gàà	gìrà
3	tsàà	dàà

yàà hyání. 「私は寝ます」

yàrà mwà. 「私たちは歩きます/歩けます」

yàà dlàr ɲá. 「私はあなたを助けてあげます/助けられます」

2.3.5 未来1型否定

[主語代名詞 + ádí + 動詞構造辞 à + 動詞(句) + wà]

の形で表現する。ádí と動詞構造辞は融合しない。
変化動詞は低声調パターン。

yádí à tòrà wà. 「私は行きません」

2.3.6 未来2型

動詞構造辞は átà。「未来に起こりうる動作」,あるいは「予定された動作」を表す。未来1型に比べ「遠い未来」であり,実現の可能性も低い。átà は「上に」を意味する前置詞。
変化動詞は低声調パターン。

	単数	複数
1	yátà(excl.) / mwàtà(incl.)	yàràtà(excl.) / mbùràtà(incl.)
2	gàtà	gìràtà
3	tsátà	dàtà

yátà wùtè ní. 「彼に会おうだろう」

pázhìr ní átà kèl ɲkwàà ná. 「彼の友人は私の娘を貰うことになっている」

mé tlàmà sáy, yàràtà lóhá Kánò. 「シャマが到着したら,私たちはカノへ行く。」

2.3.7 未来2型否定

[主語代名詞 + ádí + 動詞構造辞 átà + 動詞(句) + wà]

の形で表現する。
変化動詞は低声調パターン。ádí と動詞構造辞の融合形は;

	単数	複数
1	yádétà(excl.) / mwàdétà(incl.)	yàrádétà(excl.) / mbùrádétà(incl.)
2	gàdétà	gìrádétà
3	tsádétà	dàdétà

2.3.8 継続

動詞構造辞は àkwá。「一定期間継続した動作，現在継続中の動作」を表す。
変化動詞は高声調パターン。

	単数	複数
1	yàkwá(excl.) / mwàkwá(incl.)	yàràkwá(excl.) / mbùràkwá(incl.)
2	gàkwá	gìràkwá
3	tsàkwá	dàkwá

mjí àkwa dár bwàní. 「人々は苦勞していた」

pwápú nì àkwá sùrà. 「蛇が脱皮している」

sàkà tó mdé nì àkwá léhá, ànté dà kéḃâ ká mwàlà háhálà. 「男は帰る途中，老婆に
出会った」

2.3.9 否定継続

[主語代名詞 + ádí + 動詞構造辞 àkwá + 動詞(句) + wà]

の形で表現する。

変化動詞は高声調パターン。ádí と動詞構造辞の融合形は;

	単数	複数
1	yádékwáá(excl.) / mwàdékwá(incl.)	yàrádékwá(excl.) / mbùrádékwá(incl.)
2	gàdékwá	gìrádékwá
3	tsádékwá	dàdékwá

2.3.10 習慣

動詞構造辞は àná。「習慣的な行為，継続的に繰り返される動作，性質，一般的事実」などを
表す。

変化動詞は高声調パターン。

	単数	複数
1	íná(excl.) / mwàná(incl.)	yàràná(excl.) / mbùràná(incl.)
2	gàná	gìràná
3	tsàná ~ tsánà	dàná

iná sá mbàl. 「わしは酒飲みだ」

tsàná tá dǎvǎ ká bǎbǎtúkûr. 「彼女は料理が早い」

dǐká làká àná sóy ká dàmitò ǵá àkwá mnyá vǐǵó wà? 「1羽の鳥がお前さんの所へやって来て悪さをしてないかね？」

2.3.11 否定習慣

[主語代名詞 + áǿ + 動詞構造辞 àná + 動詞 (句) + wà]

の形で表現する。

変化動詞は高声調パターン。áǿ と動詞構造辞の融合形は;

	単数	複数
1	yáǿéénà(excl.) / mwáǿéénà(incl.)	yàráǿéénà(excl.) / mbùráǿéénà(incl.)
2	ǵáǿéénà	ǵiràǿéénà
3	tsáǿéénà	dáǿéénà

2.3.12 状態

動詞構造辞は á。「立ち上がる」「座る」「横になる」等の動詞,あるいは知覚動詞とともに用いられ「状態」を表す。「可能」の助動詞も状態構造で表される。

動態を表す動詞とともに用い「性質」「可能性」を表す用法もある。

1人称包括形と複数除外形で用いると「～しよう」の意味になる。この場合動詞の種類は問わない。

変化動詞は高声調パターン。

	単数	複数
1	yá(excl.) / mwá ~ mwǎ(incl.)	yàrá(excl.) / mbùrá(incl.)
2	ǵá ~ ǵǎ	ǵirà
3	tsá	dá ~ dǎ

yá sǎndǎ. 「知っています」

ǵá nzǎnzí. 「あなたは座っている」

(cf. ǵǎ nzǎnzí. 「あなたは座った」)

(cf. ǵàkwá nzǎnzí. 「あなたは腰を下ろそうとしている」)

yá tswákté sǎm dǎvǎ nì. 「私はこの食事が食べられます」

á mnámté ǵá mdér ǵǎnǎ. 「これはあなたを金持ちにする」

mwǎ tǎrà. 「行こう」

2.3.13 否定状態

否定状態構造は áǿ をとらず,否定辞 wà のみで表される。

変化動詞は高声調パターン。

[主語代名詞 + 動詞構造辞 á + 動詞 (句) + wà]

yá sándà wà. 「知りません」

gá nzènzí wà. 「あなたは座っていない」

yá tswákté sám dǎvè nè wà. 「私はこの食事が食べられません」

á mnámté ɲé mdér gèrà wà. 「これはあなたを金持ちにしません」

2 人称の場合に限り, áǎi と wà の組み合わせで「禁止」を表すことができる。

[主語代名詞 + áǎi + 動詞構造辞 á + 動詞 (句) + wà]

gàdé téra wà. 「行くな」

gìràdé núw rà wà. 「お前らわしの後をつけるな」

参考文献

- Abraham, R. C. (1962), Dictionary of the Hausa Language. 2nd ed. London: University of London Press.
- Bargery, G. P. (1934), A Hausa- English Dictionary and English- Hausa Vocabulary. London: Oxford University Press. [repr. with supplement by A. N. Skinner, Zaria: Ahmadu Bello University Press, 1993.]
- Barth, Heinrich B. (1857-58), Reisen und Entdeckungen in Nord- und Central- Afrika in den Jahren 1849-1855, 5 vols. Gotha.
- Davies, J. G. (1956), The Biu Book. Zaria.
- Hoffmann, Carl (1963), A Grammar of the Margi Language. London: Oxford University Press
- Hoffmann, Carl F. (1955), "Zur Sprache der Chibak", in AS, pp. 118-46.
- Hoffmann, Carl F. (1955), Untersuchungen zur Struktur und sprachlichen Stellung des Bura. Ph.D. Dissertation, Hamburg.
- Jarrett, K.A. (1980), "Tense/Aspect/Mood in Kanuri verb forms", Harusunan Nigeria(Centre for the Study of Nigerian Languages, Bayero University, Kano):1-27.
- Jungraithmayr, Hermann (1968/69), "Hausa, Ron, and Angas: a comparative analysis of their 'aspect' system", AuUe 52: 15-22.
- Klingenheben, August (1928), "Die Silbenauslautgesetze des Hausa", ZES 18: 272-297.
- Kraft, Charles H. (1981), Chadic Wordlists, Volume II, "Biu-Mandara". (MSAA, 24). Berlin: Dietrich Reimer.
- Lukas, Johannes (1963/64), "Der II. Stamm des Verbunms im Hausa", AuUe 47: 162-86.
- Matsushita, Shuji (1991), A Basic Vocabulary of the Sokoto Hausa (Northern Nigeria). Tokyo: ILCAA

- Mirt, Heide (1969), "Einige Bemerkungen zum Vokalsystem des Mandara", ZDMG Supplementa I, Vortraege, Teil 3:1096-1103.
- Mirt, Heide (1969/70), "Zur Morphologie des Verbalkomplexes im Mandara", AuUe 54:1-76.
- Mohrlang, R. (1971), "Vectors, prosodies, and Higi Vowels", JAL 10(SCI):75-86.
- Mohrlang, R. (1972), Higi Phonology. Studies in Nigerian Languages No.2, Zaria: Institute of Linguistics.
- Newman, Paul (1987), "Hausa and the Chadic languages", in The World's Major Languages, ed. by Bernard Comrie, pp. 705-723 [chap. 35]. London: Croom Helm.
- Newman, Paul and Russel G. Schuh (1974), "The Hausa aspect system", AAL 1(1):1-39.
- Schuh, Russel G. (1983), "Kilba equational sentences", Studies in African Linguistics 14(3):311-326.
- Wolff, Hans (1954), Nigerian Orthography. Zaria.
- Wolff, Hans (1959), "Subsystem typologies and area linguistics", AL 1(7): 1-88.